2013 年 7 月 18 日配付

特別展

屋根裏部屋の博物館

ATTIC MUSEUM

渋沢敬三記念事業

日本銀行総裁、大蔵大臣、本当になりたかったものとは・・・。
渋沢敬三が屋根裏部屋に込めた思い

２０１３年９月１９日（木）～１２月３日（火）
国立民族学博物館　特別展示館

国立民族学博物館では、渋沢敬三の没後 50 年を機に「渋沢敬三記念事業　屋根裏部屋の博物館 Attic Museum」と題して特別展を開催します。

本年は、渋沢敬三没後 50 年の節目にあたります。一般社会にはなじみが少ない彼のプロフィルと業績を示すとともにその事跡を顕彰します。民具コレクションを研究対象ごとに公開し、身近な学問である民俗学に親しんでもらう機会にしたいと考えています。

渋沢敬三は、実業家、銀行家（第一銀行頭取・日銀総裁などを歴任）、民間から起用された初の大蔵大臣（幣原喜重郎内閣）、国際親善大使、慈善家、教育者、水産史・民俗学研究者などの多彩な顔を持っています。戦前は、明治新政府のもとで銀行と株式会社制度を導入して日本に資本主義を根づかせた祖父栄一の顕彰事業に力を注ぎ、アチック・ミューゼアムと水産史研究室を開設して研究者の育成に献身するとともに自らも研究に励みました。戦後は「9 学会連合」を組織し、また「南方ソサエティー」を設立して南方熊楠の業績を世に知らしめるとともに顕彰しました。生涯にわたり膨大な私費を投じ続けた研究助成・出版助成など、学問上に果たした数々の功績から「学問の組織者」「日本民族学の父」と称されています。本特別展では、このような彼の人物像を紹介するとともに、彼が収集比較研究に取り組んだ民具研究の成果を展示します。

本展の見どころ

■没後５０周年。多彩な顔をもつ「渋沢敬三」にせまる

実業家、銀行家（第一銀行頭取・日銀総裁などを歴任）、民間から起用された初の大蔵大臣（幣原喜重郎内閣）、国際親善大使、慈善家、教育者、水産史・民俗学研究者などの多彩な顔を持つ渋沢敬三の優れた功績をお伝えします。

■貴重な資料の数々・資料総数約８００点を展示！

髭達磨など約１００体の達磨や、足半（あしなか）草履約２００足など多くの貴重な資料を展示。また伝承が途絶えてしまい、現在は制作不可能な奄美地方の芭蕉繊維で作られた晴着や内側に耳がついた内耳鍋も展示します。値段をつけることができない貴重な資料を本展覧会で多数観覧いただけます。

■重要有形民俗文化財「オシラサマ」コレクション

日本の東北地方で信仰されている家の神「オシラサマ」。本展覧会では国指定重要有形民俗文化財第一号に指定されたコレクション33 体を紹介いたします。

■「読ませる展示」を意識した展示構成

多くの資料をただ見せるだけではなく、渋沢敬三の足跡をたどるストーリーとして比較研究・民族学の方法論から考え、解説もより丁寧にしています。屋根裏部屋を散策しているかのような展示構成で楽しんで観覧していただけます。

【展示の内容･構成】

本特別展では、本館に所蔵されている「アチック・ミューゼアム旧蔵資料」を中心に資料総数約 800 点を展示します。

1）イントロダクション「渋沢敬三とは」
渋沢敬三の年賦と遺品など。渋沢邸模型、カメラ、蓄音機など。

2）「比較研究・民族学の方法論、民具の収集調査研究、そのアプローチを考える」
髭達磨ほか、関東地方西部のダルマ生産地を網羅した民具研究の序章とも言うべきダルマ研究の成果を公開します。ほかに民具研究の最初の成果として高く評価された履物（あしなか草履）の研究方法を紹介します。

3）「北方民族、台湾原住民、朝鮮半島の各地の調査収集活動を提示。現代的な意義を示す」
北方、台湾、朝鮮半島を取り上げ、研究の成果を展示します。また、過去の事例だけでなく現在の状況やネイティヴの情報を付加することで、過去と現在をつなげる展示とします。

4）「十島調査」
学際的な合同調査のさきがけとなったアチックミューゼアム主催の調査結果を提示します。

【展示資料】

・渋沢敬三邸模型、文書カード整理箪笥（三沢市青森屋蔵）、カメラ、蓄音機（吉田総耕氏個人蔵）、野口明書簡集（東北大学史料館蔵）、掛け軸（渋沢栄一記念館蔵）、日本民俗学博物館鳥瞰図（工学院大学図書館蔵）など。

・「達磨の研究」	本館蔵資料　約 100 点	・「晴着」「労働着」	本館蔵資料　約 20 点
・「凧」	本館蔵資料　約 60 点	・「筌の研究」	本館蔵資料　約 90 点
・「オシラサマ」	本館蔵資料　約 30 点	・「足半（あしなか）の研究」	本館蔵資料　約 200 点
・「性信仰」	本館蔵資料　約 40 点	・「塩篭と民間療法」	本館蔵資料　約 15 点
・「絵馬」	本館蔵資料　約 90 点	・「十島調査」	本館蔵資料　約 40 点

・「運搬具」「雪上歩行具」「福助人形」など民具資料

■展示名　特別展「渋沢敬三記念事業　屋根裏部屋の博物館　Attic Museum」
■会期　２０１３年9月１9日（木）～ １２月3日（火）
■場所　国立民族学博物館　特別展示館
■時間　１０：００～１７：００（入館は１６：３０まで）
■無料入館日　１１月3日（日・祝）、１１月１６日（土）、１１月１７日（日）
■休館日　水曜日
■観覧料　一般８３０円（５６０円）、高校・大学生４５０円（２５０円）、小・中学生２５０円（１３０円）
（　）は２０名以上の団体料金／リピーターは団体料金を適用
■主催　国立民族学博物館
■協賛　財団法人ＭＲＡハウス
■後援　大阪府、大阪府教育委員会、吹田市、吹田市教育委員会、日本文化人類学会
■協力　公益財団法人渋沢栄一記念財団渋沢史料館、埼玉県立歴史と民俗の博物館、神奈川大学日本常民文化研究所、
財団法人宮本記念財団、渋沢栄一記念館、東北大学史料館、工学院大学図書館、
流通経済大学図書館、西東京市中央図書館、星野リゾート青森屋、松涛館、八勝館、一般財団法人千里文化財団
■巡回先　埼玉県立歴史と民俗の博物館（平成 26 年）
■問い合せ　国立民族学博物館　０６－６８７６－２１５１（代）
■実行委員長　近藤雅樹

【関連催し物】

みんぱくゼミナール

少年時代に友人たちといっしょにコレクションを持ち寄り、馬車庫の屋根裏で博物館ごっこをしていたのが渋沢敬三でした。生物学者になるのが夢でした。長じてからは邸内に本格的な博物館兼研究所を建て、若い研究者たちの育成にも心を砕いた渋沢の一面についてお話します。

■タイトル「屋根裏部屋博物館主人の横顔」
■9月 ２1日（土）
■１３時３０分～１５時００分
■永井 美穂（渋沢史料館 学芸員）/ 木村 裕樹（龍谷大学 非常勤講師）/ 飯田 卓（国立民族学博物館 准教授）
■国立民族学博物館　講堂
■申込不要（定員４５０名）

みんぱくウィークエンド・サロン－研究者と話そう

■9月 ２2日（日）１４時３０分～１５時３０分
■木村 裕樹（龍谷大学 非常勤講師）
■特別展示館／申込不要（要観覧料）

シンポジウム、研究講演等予定

■１０月１３日（日）公開シンポジウム「渋沢敬三を語る―偉大なる学問の庇護者」
■国立民族学博物館　講堂
井上 潤（渋沢史料館 館長）／内田 幸彦（埼玉県歴史と民俗の博物館 主任学芸員）／武田 晴人（東京大学　教授）
宮本 瑞夫（宮本記念財団　理事長）／久保 正敏（国立民族学博物館 教授）

その他

■ギャラリートーク
実行委員会メンバーによるギャラリートークの実施（日時等未定）
■友の会講演会
１０月５日（土） 特別展関連「渋澤敬三の“民具”へのこだわり」
■ワークショップ
参加型のワークショップを期間中開催予定

お問い合わせ　国立民族学博物館　広報企画室　広報係
電話 :06-6878-8560（直通）Fax:06-6875-0401 Mail:koho@idc.minpaku.ac.jp　プレス向けウェブサイト http://www.minpaku.ac.jp/press

2013年特別展「渋沢敬三記念事業　屋根裏部屋の博物館　Attic Museum」
広報用画像リスト

1．だるま

2．渋沢敬三

3．だるま

4．おしらさま

5．芭蕉繊維で織られた晴れ着

6．だるま集合

7. 展覧会イメージ

8．足半草履

9．内耳鍋

これらの広報画像はデータにて提供可能です。

ご入り用の画像があれば、広報企画室広報係まで裏面申込用紙の内容をお知らせください。

2013年特別展「渋沢敬三記念事業　屋根裏部屋の博物館　Attic Museum」

広報用画像利用申込用紙

〔メールでお申し込みの場合〕koho@idc.minpaku.ac.jp

〔FAX でお申し込みの場合〕FAX 番号:　06−6875−0401

【ご希望の画像番号】

【貴社・貴機関についてお知らせください。】

貴社・貴機関名	媒体名
ご担当者名	所属部署
ご住所　〒	E-mail
電話番号	FAX 番号
ご掲載・放映の予定日が決まっている場合	年　　月　　日

【広報に関するお願い】

■掲載記事、番組内容について館の基本情報の確認のため、原稿等の校正を、ＦＡＸまたはメールにて、
　下記連絡先までお送りいただきますようお願いいたします。

■写真使用に関するお願い、注意事項

・クレジットには全て国立民族学博物館と記載ください。

・写真（画像）のトリミングや文字乗せはご遠慮ください。

・作品写真の使用目的は、本展の紹介のみとさせていただきます。なお、本展覧会終了後の使用はできませんのでご了承ください。

■お手数ですが、掲載紙・誌または録画テープを３部お送りください。

【広報に関するお問い合わせ】
国立民族学博物館　広報企画室　広報係
〒565-8511　大阪府吹田市千里万博公園 10-1
TEL：06-6876-2151（代表）06-6878-8560（直通）
FAX：06-6875-0401　　MAIL：koho@idc.minpaku.ac.jp

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国立民族学博物館
National Museum of Ethnology